

AIエージェント収益の柱スターターキット

投稿を書かせるだけで終わらせない、記憶×スキル×仕組み化の実践ワークブック



この特典の約束

この特典は、AIエージェントを「便利な作業代行」ではなく、「収益の柱を作るための実行パートナー」として使うためのワークブックです。

目的は、すごいプロンプトを1つ手に入れることではありません。

次の5つを、自分の事業用に整理することです。

- どの収益拠点から作るか
- どの作業をAIパートナーに任せるか
- 何を記憶として残すか
- どの数字を見て検証するか
- 勝ち筋が見えた時に、どこへ横展開するか

AIに投稿や記事を作らせるだけなら、誰でもできます。

でも、投稿が増えても、導線がなければ資産になりません。

記事が増えても、読者の悩み、検索意図、商品や相談への流れがなければ収益化しません。

だから、この特典では「何を書くか」より先に、「何を収益拠点として育てるか」を決めます。

0. まず決めること

最初に、1つだけ決めてください。

今から30日で育てたい収益拠点:

その収益拠点で集めたい人:

その人が今困っていること:

最終的につなげたい商品・相談・登録:

AIパートナーに任せたい作業:

例:

今から30日で育てたい収益拠点:

AI活ユーザー向けのX記事とnote導線

その収益拠点で集めたい人：
毎日AIを使っているが、売上や導線に結びついていない個人事業主

その人が今困っていること：
投稿や記事は作れるが、反応ログや改善が残らず、毎回ゼロから考えている

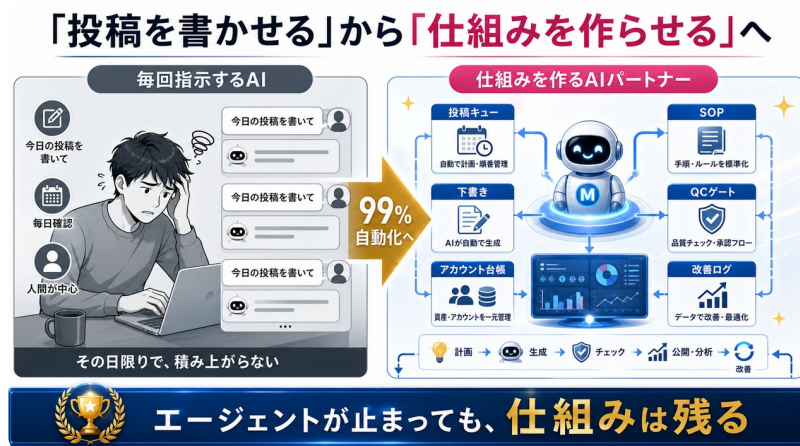
最終的につなげたい商品・相談・登録：
エージェントメモリーズの先行案内、無料資料、個別相談

AIパートナーに任せたい作業：
投稿案作成、記事構成、反応ログ整理、公開前チェック、横展開案の作成

ここが曖昧なままAIを使うと、作業は速くなくても収益には近づきません。

まずは、AIに何を作らせるかではなく、どの柱を育てるかを決めます。

1. 収益拠点マップ



AIエージェントを使う時に、最初から全部やろうとすると崩れます。

まずは、自分にとって一番近い収益拠点を1つ選びます。

候補1: X / Threads / Bluesky
役割: 認知、反応確認、入口作り
向いている人: 発信をすでに始めている人

候補2: note / X記事
役割: 保存される本編、思想、実録、導線
向いている人: 長文で価値を伝えたい人

候補3: ブログ / SEO
役割: 検索資産、長期流入
向いている人: 悩み解決記事を積み上げたい人

候補4: AEO向け記事
役割: AI検索で引用される回答資産
向いている人: 専門性や実績を持っている人

候補5: 無料特典 / メール登録
役割: 読者との継続接点
向いている人: 相談、販売、講座、サービスへつなげたい人

候補6: 有料note / テンプレ / 相談
役割: 初期売上
向いている人: すでに悩み解決の型を持っている人

今回作る収益拠点:

選んだ理由:

すでに持っている資産:

足りない資産:

最初の入口:

最終的な出口:

30日後に見たい数字:

30日後に見たい数字は、いきなり売上だけにしないで大丈夫です。

最初は、次のような数字でも十分です。

- プロフィールクリック
- 記事の保存
- 無料特典の登録
- 相談へのクリック
- 問い合わせ
- AI検索や外部流入からの発見

大事なのは、数字を見て次に何を改善するかまで決めることです。

2. AIパートナーに持たせるスキル

収益拠点づくりに必要なのは、文章作成だけではありません。

AIパートナーに持たせたいスキルは、少なくとも次の10個です。

1. リサーチ
2. 読者の悩み整理
3. SEO / AEO記事設計
4. note / X記事への横展開
5. SNS投稿への分解
6. サムネイル / 図解の企画
7. 内部リンク / 次の行動の設計
8. 公開前チェック
9. 反応ログの記録
10. 勝ち筋の横展開

ここで大事なのは、AIを「文章を書く担当」だけにしないことです。

記事を書く前に、読者を整理する。

投稿を作る前に、過去の反応を見る。

公開する前に、導線と表現を確認する。

公開した後に、次に何を改善するかを残す。

この一連の動きができると、AIは作業代行ではなく、収益拠点づくりのパートナーになります。

スキル棚卸しシート

今すでにAIに任せられている作業:

まだ人間が毎回やっている作業:

AIに任せたいが、ルールがなくて任せられない作業:

AIに任せる前に必要な記憶:

公開前だけ人間が見るべき作業:

「任せたいけど任せられない作業」は、AIが弱いのではなく、前提が足りないことが多いです。

その前提を記憶として残すと、次回から任せやすくなります。

3. 99%自動化を目指す仕組み

ここで言う99%自動化は、成果保証ではありません。

人間が毎回やっていた説明、確認、整理、下書き、記録を、できるだけ仕組みに移していく考え方です。

理想の流れはこうです。

```
inbox
→ ネタ仕分け
→ 記事構成
→ 本文作成
→ サムネイル / 図解準備
→ 内部リンク / 次の行動設計
→ 公開前チェック
→ 人間が承認
→ 公開
→ 反応記録
→ 改善案
→ 横展開
```

人間が見るべき場所は、全部ではありません。

人間が見る場所:

- ・公開してよいか
- ・表現にリスクがないか
- ・商品や価格に関わる判断
- ・大きな方針変更
- ・勝ち筋へ集中するかどうか

逆に、AIパートナーに寄せたい作業はこれです。

AIパートナーに寄せたい作業:

- ・候補の整理
- ・下書き
- ・比較
- ・チェックリスト化
- ・過去ログ参照
- ・次に試す案の作成
- ・横展開候補の作成

仕組み化チェック

毎回同じ説明をしている作業:

毎回同じ確認をしている作業:

毎回同じ修正をしている作業:

チェックリストにできる作業:

AIが過去ログを見れば判断できる作業:

人間が最後だけ見ればよい作業:

このシートに書けたものから、AIパートナーの記憶に移していきます。

4. 100回検証ログ



AIエージェントの強さは、検証速度にも出ます。

最初から正解を当てようとしなくて大丈夫です。

100回検証して、1つ勝ち筋が見えたら、そこに集中します。

そのために必要なのは、検証を残すことです。

検証番号:

日付:

媒体:

テーマ:

狙った読者:

使った切り口:

置いた導線:

見た数字:

反応:

学び:

次に試すこと:

横展開できるか:

例:

検証番号:

012

日付:

2026-06-29

媒体:

X記事

テーマ:

AIエージェントで収益拠点を量産する考え方

狙った読者:

AIを使っているが、収益導線まで作れていない個人事業主

使った切り口:

自動化ではなく収益拠点

置いた導線:

無料特典と先行案内

見た数字:

プロフィールクリック、記事保存、登録クリック

反応:

保存されたが登録が少ない

学び:

読者は概念に反応しているが、次に何をすればいいかが弱い

次に試すこと:

設計シート型の特典へ誘導する

横展開できるか:

note、ブログ、ウェビナー音声へ展開できる

重要なのは、数字だけではありません。

なぜ反応したのか。

なぜ登録されなかったのか。

次に何を变えるのか。

ここまで残すことです。

5. 実績と証拠の置き方

AI検索の時代は、プロフィールや記事だけでなく、実績の置き方も大事になります。

実績は、ただ自慢するために置くものではありません。

読者やAIが「この人は何をやってきた人なのか」を判断するための材料です。

実績として残したいものは、次のようなものです。

実績として残せるもの:

- ・売上や成約の事実
- ・相談や問い合わせの発生
- ・公開した記事や資料
- ・改善前後の変化
- ・顧客の悩みと解決した内容
- ・AI検索や外部経由で見つけた事例
- ・作った仕組みやテンプレート

今回のように、ココナラ経由で税込66万円のコンサル付き商品が売れた場合も、単なる売上報告で終わらせません。

見るべきなのは、次の3つです。

1. どこで見つけたのか
2. 何が信用材料になったのか

3. 次に同じ導線を再現するには何が必要か

実績ページ設計シート

実績の種類:

実績の数字:

読者に伝えたい意味:

AI検索に残したい文脈:

関連する記事:

関連するプロフィール:

次に誘導したいページ:

スクリーンショットや画像の有無:

公開してよい範囲:

実績画像を使う時は、見せてよい範囲を必ず確認します。

金額、名前、個人情報、取引情報、プラットフォーム規約に触れる部分は、必要に応じて伏せます。

実績は強いですが、強く見せることより、正しく見せることの方が大事です。

6. 横展開チェックリスト



勝ち筋が見えたら、次は横展開です。

横展開とは、同じ仕組みを別の場所で試すことです。

横展開候補:

- ・別ジャンル
- ・別ブログ
- ・別SNS
- ・note記事
- ・X記事
- ・動画
- ・音声
- ・テンプレ販売
- ・相談商品
- ・海外向け記事
- ・海外アフィリエイト

ただし、何でも横展開すればよいわけではありません。

次の条件に当てはまるものから試します。

横展開してよい条件：

- ・読者の悩みが似ている
- ・同じ導線で説明できる
- ・既存の実績が信用材料になる
- ・AIパートナーが過去ログを参照できる
- ・必要なスキルがすでにある
- ・人間の承認だけで回せる

横展開判断シート

元になった勝ち筋：

横展開先：

似ている読者の悩み：

使い回せる資産：

新しく作る必要がある資産：

リスク：

最初の検証方法：

成功と判断する数字：

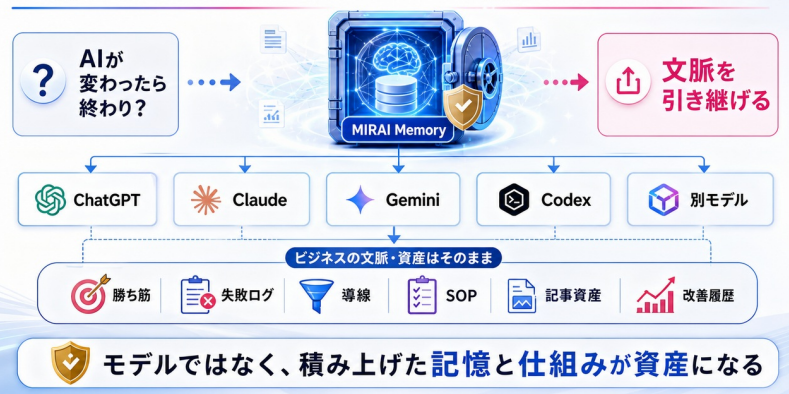
失敗した時に残す学び：

横展開は、ただコピーすることではありません。

勝った理由を残し、その理由が別の場所でも通用するかを見ることです。

7. 記憶を持ち出せるAIパートナー

記憶は持ち出せる。LLMが変わっても続く。



AIエージェントを事業に使うなら、記憶はとても重要です。

なぜなら、モデルやツールは変わるからです。

ChatGPTを使う日もある。

Claudeを使う日もある。

Geminiを使う日もある。

CodexやClaude Codeを使う日もある。

でも、事業の文脈は毎回ゼロに戻したくありません。

だから、記憶は特定のAIだけに閉じ込めない方がいい。

持ち出せる記憶として残しておくべきものは、次の通りです。

残すべき記憶：

- ・ 事業の目的
- ・ ターゲット
- ・ 商品や導線
- ・ 投稿先アカウント
- ・ 公開前チェック
- ・ 過去に伸びた切り口
- ・ 過去に失敗した切り口
- ・ 実績と証拠
- ・ 人間が必ず判断する場所

これがあると、AIを変えても、続きから始めやすくなります。

毎回ゼロから説明する時間が減ります。

そして、AIパートナーは少しずつ「自分の事業を知っている存在」になります。

8. 7日間実装ロードマップ

この特典は、読むだけでは意味がありません。

7日で、最小の収益拠点を1つ作るつもりで進めます。

Day 1:

収益拠点を1つ選ぶ。

ターゲット、悩み、出口を決める。

Day 2:

既存資産を棚卸しする。

プロフィール、記事、投稿、実績、商品、相談導線を確認する。

Day 3:

AIパートナーに持たせる記憶を作る。

目的、読者、商品、投稿先、公開前チェックを残す。

Day 4:

入口コンテンツを1つ作る。

X記事、note、ブログ記事、スレッドのどれか1つでよい。

Day 5:

無料特典または登録導線を作る。

チェックリスト、テンプレート、設計シートなど、読者が保存したくなるものにする。

Day 6:

公開前チェックをする。

タイトル、導線、画像、実績、表現リスク、次の行動を確認する。

Day 7:

公開後の反応を記録する。

数字、反応、学び、次に試すこと、横展開候補を残す。

7日で完成を目指す必要はありません。

大事なのは、収益拠点づくりの流れを一度通すことです。

一度通せば、次は改善できます。

9. AIパートナーに渡す起動プロンプト

最後に、このワークブックを使うための起動プロンプトを置いておきます。

あなたは、私の収益拠点づくりを支援するAIパートナーです。

目的は、単発の投稿や記事を作ることはありません。
X、note、ブログ、無料特典、商品導線、実績ページをつなげて、
収益につながる仕組みを育てることです。

まず、次の情報を確認してください。

1. 今回育てる収益拠点
2. 狙う読者
3. 読者の悩み
4. 最終的につなげたい導線
5. すでにある実績や証拠
6. 使える既存コンテンツ
7. 公開前に必ず人間へ戻す判断

その上で、次の順番で提案してください。

1. 最初に作るべき入口コンテンツ
2. そのコンテンツからつなげる無料特典
3. 公開前チェック項目
4. 公開後に見る数字
5. 次に横展開できる候補

抽象論ではなく、今日作れる単位に分解してください。

10. 無料X投稿MCPで、1日3回まで実際に動かす

ここまで読んだら、次は小さく動かしてみてください。

最初から大きな仕組みを作る必要はありません。

まずは、ClaudeからX向けの文章投稿を1アカウント固定・1日3回まで補助できる無料MCPを使って、AIパートナーに「投稿を作るところ」から「投稿画面を開くところ」まで任せる体験をしてみます。

無料X投稿MCPでできることは、次の通りです。

できること：

- ・ ClaudeからX投稿案を作る
- ・ 投稿文をローカルに保存する
- ・ Xの投稿画面を本文入りで開く
- ・ 投稿前に自分で内容を確認する
- ・ 1アカウント固定で、1日3回まで投稿準備を試す

大事なのは、いきなり全部を自動化しないことです。

最後に投稿するかどうかは、必ず自分で確認します。

その代わりに、毎回ゼロから投稿文を考えたり、同じ説明をAIに繰り返したりする時間を減らせます。

使い方の流れ

1. 無料X投稿MCPの案内ページを開く
2. 手順に沿ってファイルをダウンロードする
3. 自分のPCで起動する
4. Claudeに接続する

5. Xにログインしているブラウザで投稿画面を開く
6. 投稿文を確認する
7. 問題なければ自分で投稿する

無料X投稿MCPの案内ページはこちらです。

<https://agentmemories.jp/kirisaki/library/mcp-api-starter-pack/>

この無料MCPIは、エージェントメモリーズ本体ではありません。

まずは「AIに発信を手伝ってもらう体験」を試すための入口です。

エージェントメモリーズでは、この体験に、記憶、投稿履歴、口調、過去の反応、他のスキル連携を足していきます。

つまり、無料MCPIは最初の一步です。

その先に、どのAIを使っても自分の文脈を持ち出せるAIパートナーを育てていく流れがあります。

11. 次にやること

この特典を読み終えたら、まず1つだけやってください。

収益拠点選定シートを埋めることです。

AIを使う目的が「便利」から「収益拠点づくり」に変わると、指示の出し方も変わります。

投稿を書いて。

記事を書いて。

画像を作って。

これだけではなくなります。

この導線を育てるには、次に何を作るべきか。

この反応を見て、どこを改善すべきか。

この勝ち筋を、どの媒体へ横展開すべきか。

AIパートナーに聞くべきことが変わります。

エージェントメモリーズで作りたいのは、まさにこの状態です。

AIを、毎回ゼロから呼び出す道具で終わらせない。

記憶とスキルを持った、自分専用のAIパートナーとして育てる。

そして、そのAIパートナーと一緒に収益拠点を増やしていく。

その最初の一步として、このスターターキットを使ってください。

受け取り後のおすすめ順

1. 収益拠点選定シートを埋める
2. 7日間ロードマップのDay 1だけ実行する
3. AIパートナー起動プロンプトを使う
4. 1つ目の入口コンテンツを作る
5. 100回検証ログに1件目を残す
6. 無料X投稿MCPで、1日3回まで投稿準備を試す

完璧に作る必要はありません。

まずは1回、収益拠点づくりの流れを通す。

そこから、記憶と改善を積み上げていきます。

エージェントメモリーズの先行案内はこちらです。

<https://agentmemories.jp/#join>